

一、人體内潜伏ノ寄生蟲ヲ撲滅スル

凡ソ傳染病豫防ノ原則ハ其ノ地方ヨリ病原物ヲ除去スレハ病毒媒介者カアツテモ傳染病患者カ發生シ又蔓延流行スルコトナシ此意味ヨリ「マラリア」寄生蟲ノ潜伏シアリト認ムヘキ流行地ノ一般ニ對シ「キニーネ」ヲ數日置キニ反復服用サセルトタトヘ「アノフェレス」カ居テモ他ニ傳染サセル危險カナイ何セカト云フニ各人體内ニ潜伏シアル寄生蟲ハ「キニーネ」ヲタメニ已ニ撲滅サレテアルカラテアル以上ハ其ノ地方カラ「マラリア」病毒ヲ驅除スル目的テアルカラ此ノ方法ヲヤルトセハ一村若クハ一大字全體ニ對シ一齊ニ勵行セサルヘカラス個人的任意ノ豫防ハ實績ヲ上クル點ニ於テ微力テアル依ツテ貧困者ハ藥價ヲ無料トシ其ノ以外ノ人カラハ藥價ヲ徴收シ役場及醫師、警察官ハ指揮監督者トナリ衛生組合長ハ實行斡旋者トナル等協力一致シ努力スルノテアル現ニ臺灣テハ右ノ方法ヲ以テ偉大ナル効果ヲ上ケツ、アリマス

又伊太利亞ノ例ニナラツテ役場ニ「キニーネ」ヲ用意シ實費ヲ分配スルノモ有力テス

二、患者ハ防蚊ノ方法ヲ守ル

明治三十四年陸軍衛生部ハ臺灣基隆テ防蚊法ニヨル「マラリア」豫防ノ試驗ヲ行ヒ卓効ヲ奏シタ本試驗ニ於テ非防蚊兵七百七名ノ内二百五十一名カ患者トナツタ防蚊兵百五十人カラハ一名ノ患者モ出ナカッタ

防蚊法トハ窓戸ニ金網若シクハ布ヲ張り詰メ一匹ノ蚊スラ進入セシメヌ又外出スル時ハ防蚊覆紗ニテ頭部ヲ覆ヒ手足ノ露出セサル様足袋、手袋、股引等ヲ使用スルニアリ此ノ意義カラ患者ハ必ス日中テモ蚊帳内ニ居リ又健康者テモ午睡假睡ナトノタメ蚊ニ刺サレサル様注意ヲナシ蚊即チ「マラリア」病毒テウ假想ヲ以テ專心蚊族ノ被刺ヲ回避セサルヘカラス蚊ハ酒ヲ好ムカラ飲酒後假睡スルハ最も危険テアル

豫防上切ニ患者ニ望ミマスカ自己ノ蚊帳外ニ居ルハ衛生道德上ノ罪人テウ美シキ心得アラムコトヲ

三、蚊族ノ驅除撲滅ヲ勵行スル

夏ニ蚊カ居ラサルトセハ吾人ハ如何ノ安樂テセウカ加之蚊ハ「マラリア」病毒ノ媒介者タル上ハ衛生上極力驅除撲滅ノ手段ヲツクサネハナラヌ併シ蚊ノ驅除法トシテハ未タ理想的ノモノ少ク只金ト時間ニ拘泥セサレハ二三良法モアルカ此場合獎勵シ難キヲ遺憾トスル根本的蚊ノ撲滅法ハ(一)排水ヲ完全ニスルニアリ然ルニ本郡ハ概シテ汚水地テ自然的惡水貯溜シ土地濕潤シ蚊ノ發生ニ好適ナルハ衛生上、産業上大ニ遺憾トスル所テ排水工事ノ急務ナルハ衛生上ヨリモ認ムル所テアル併シ各人氣脈ヲ通シ夫レノ排水ニ努力シ居宅附近ノ乾燥ニ心掛クルナラハ自然蚊ヲ少カラシムルコトカ出來ル蚊ヲ少ナクスル丈ケテモ「マラリア」豫防上ニハ大ナル効果カアル今參考トシテ上海工部衛生局公示蚊ニ關スル注意書ヲ紹介致シマセウ

蚊ニ關スル注意

- 一、蚊ハ「マリア」其ノ他惡疫傳播ノ媒介ヲナスモノナリ
- 二、蚊ハ溜水内ニアラサレハ増殖セス溜水ナケレハ從ツテ蚊ナシ
- 三、棒振蟲(蛹蚊)ハ呼吸ノ際水面上ニ浮遊シ來ルヲ以テ溜水ニハ必ス一面ニ石油ヲ撒布シテ之ヲ撲滅スヘシ
- 四、古罐古瓶、陶磁器ノ破損セルモノ及花瓶等ニハ雨水或ハ古水ノ停溜腐敗セルタメ棒振蟲發生ノ恐れアルヲ以テ此等ハ庭園其他家屋構内ヨリ取除キ塵芥内ニ投入シ他ニ搬出セシムヘシ
- 五、水桶類、水瓶、水草鉢、花瓶臺其他水器類ニシテ廢棄シ難キモノハ一周一回石油ヲ注入或ハ撒布スヘシ
- 六、花園内、水瓶類、泉水、水桶中ニアル水ハ時々之ヲ取換フヘシ花園灌水ニ用ユル水ハ水道ニヨリ直接ニ使用スヘシ若シ直接使用出來難キ時ハ之ヲ貯溜スル水瓶類ハ一周一回石油ヲ注入スルカ或ハ水中ニ蚊ノ産卵ノ出來サル様完全ニ蓋ヲ施スヘシ
- 七、狗舎、雞舎等ニ於ケル給水ハ時々之ヲ取替フヘシ
- 八、下水溝及雨樋ハ常ニ清潔ニ掃除シ閉鎖セサル様常ニ修繕ヲ施スヘシ常ニ掃除出來難キ厨房排水管等ハ每週石油ヲ注入スヘシ

- 九、泥土ヲ以ツテ埋モレタル雨水溜及濕地ハ之ヲ開掘流通セシメ或ハ灰殻ヲ敷設シテ地ナラシヲナシ池水溜等ハ先ツ塵芥ヲ以ツテ埋メ其上ヲ土灰ニテ蔽フヘシ
- 十、泉水中ノ棒振蟲ハ魚類ノ食物トナルカ故ニ蚊ノ發生ヲ見ル事少ケレ共若シ棒振蟲ノ發生シタル場合ハ水ヲ注入スル以前豫メ每週石油ヲ注入シテ掃除スヘシ
- 十一、家屋及其周圍ハ每週一回検査ヲ行フヘシ
- 十二、不注意ノタメ小水器ヨリ多數ノ蚊ヲ孵化シ爲メニ近隣ノ人々ニ迷惑ヲカクル事アルヲ忘ルヘカラス

以上ノ實行ヲナスタメ政廳テハ外國人衛生監吏監督ノ下ニ相當教育アル支那人ヲ雇ヒ日程ニ從ヒ居留地内ヲ検査シ貯水發見次第之レヲ放流シ又石油ヲ注入スルコト必ス一週一回以上巡視ス實ニ本事業ハ政廳防疫事業中特筆スヘキ効果ヲ奏シ開港當時「マリア」流行ノ著シカリシモノ今日ニテハ殆ント患者ナクモ蚊又極メテ稀少トナリ昔日ノ不健康地ハ變シテ健康地トナリツ、アリト聞ク

要スルニ棒振蟲ヲ撲滅スルハ蚊ヲタヤス唯一良法テ蚊カナケレハ「マリア」カナイ上海ニテ使用シタ石油ハ「ロヂシン」ト粗製石油トノ等分混合液テアル燈火用石油ハ高價テアルカラ粗製石油即チ重油ヲ使用スレハ幾分經濟的テアル一滴ノ石油ハ一平方尺ノ水面ニ擴カリ降雨溢水ナトナケレハ一ヶ月間ハ有効テアル

蚊ノ撲滅ニ自然界ノ敵ヲ利用スルハ最モ伶俐ナル人爲的施設ハ持久上至難ノモノタ蚊ニ對スル自然界ノ敵トハ蝙蝠、鳥類「トカゲ」蛙、蜻蛉ナトハ蚊ヲ喰フ動物ナル又蚊ノ幼蟲ヤ蛹ノ發生スル水中ニハ「ミズスマシ」、「マツモムシ」ノ成蟲ヤ「トンボ」、「カゲラフ」等ノ幼蟲ヲ居ル之レモ又蚊ノ幼蟲ヤ蛹ヲ喰フモノヲアル

魚類殊ニ小魚モ蚊ノ幼蟲ヲ捕食ス金魚ノ如キ其ノ一種ナル但シ金魚ハ餌ヲヤリ飽食サセルト捕食力カ減ル最モ多ク幼蟲蛹ヲ喰フ魚ハ印度ニ産スル「ミンノー」或ハ「バナマ」運河附近ニ居ル「ミルリオン」ト稱スル一寸ニモ足ラヌ小魚タカ日本ニ居ラヌカラ役ニ立タヌ

蚊ノ性質ヲ知ルモ又「マラリア」豫防上必要ナル「マテソン」氏ノ實見テハ蚊ハ一哩以上隔ツタ陸カラ島ニ飛行セス「オスボルン」氏ノ觀察テモ蚊ハ一哩ノ距離ニハ風ノ助ケカナケレハ達シ得ス就中「アノフェレス」ハ飛行力弱ク遊飛ノ範圍ハ三四百間テアルト謂フ

蚊ノ喰物ハ人畜ノ血液ハカリテナク植物ノ汁液(雄ハ血ヲ吸ハス全ク植物ノ汁液ノミ)雌ハ吸血スルカ此レハ産卵ノ必要カラテ平常ハ汁液ニテ生活スル今桃、梨、林檎、砂糖テ蚊ヲ飼養スレハ長ク生キテ居ル、蚊ハ又酒ヲ好ミ酒氣アル臺所ニ集合シ或ハ樹木、竹藪等陰濕ノ處ニ好ンテ棲息スルカラ樹枝ヲ伐截シテ日光空氣ノ流通ヲ能クスルコトモ必要ナル

蚊ハ晩春ヨリ發生シ夏時最モ盛ニ秋ニ段々減リ冬ハ殆ント發生シナイ併シ冬臺所、便所ノ隅ニ不活潑

ノ蚊ヲ發見スルコトカアルカ此レハ晩秋發生ノ蚊テ其マ、越年スル併シ越年ノ蚊ハ雌ニシテ雄テハナイ
幼蟲モ又越年スル者テ冬季水中ニ發見スルカ蚊ノ驅除撲滅ヲ圖ルニハ此等モ多少參考トナル

鹽酸キニーネ服用心得

- 一、鹽酸「キニーネ」ト澱粉トヲ等分ニ研和ス
- 二、研和シタル鹽酸キニーネ澱粉ヲ「オブラート」ニ包ミ冷水ニテ服用ス
- 三、服用時間ハ「マラリア」發作前五時間トス
- 四、服藥ニヨリ「マラリア」發作休止(ヲチル)スルモ尙數回連用スルコト
- 五、「マラリア」發作休止後ノ服用ト雖モ分量時間等ハ同一ナルヘキコト
- 六、服藥スルモ「マラリア」發作休止セサル時ハ幾分分量ヲ増加スルコト
- 七、一回量ハ
 - 一歳以上五歳マデ 小匙三分ノ一
 - 六歳以上十歳マデ 小匙二分ノ一
 - 十一歳以上十五歳マデ 小匙一杯
 - 十六歳以上二十歳マデ 中匙一杯

二十一歳以上五十歳マデ	大匙一杯
五十一歳以上六十歳マデ	中匙一杯
六十一歳以上凡テ	小匙一杯

八、「マラリア」豫防ノ目的ニテ本藥ヲ服用スル時ハ前記割合ニテ五日毎ニ一回就眠前服用スルコト

(一一) 千葉 縣

本縣ニ於テハ會テ印旛、手賀沼附近ニ該病患者非常ニ多カリシモ十數年來殆ント撲滅ノ狀況ニシテ昨年ノ如キ縣下各地ヲ通シ僅カニ三十一名ノ患者ヲ散發セルニ過キス從テ病竈地ト認ムヘキ所ナキヲ以テ豫防ニ關シ特種計畫ハ勿論該當事項ナシ

(一二) 茨城 縣

縣下ニ於ケル本病ニ關シテハ既往水戸市及眞壁郡下妻町附近町村ニ多少ノ流行セシコトアルモ近年殆ト之カ流行ヲ見サル狀況ナルヲ以テ該當スヘキ事項ナシ

(一三) 栃木 縣

一、「マラリア」ノ蔓延狀態

本縣下ニ於ケル本病ハ往時ヨリ其ノ存在ヲ認メラレ縣下南部(兩毛線以南)ニ於テ毎年多數ノ患者發生ヲ見ル其ノ發生地ハ安蘇郡、下都賀郡及足利郡ニシテ最モ多數發生スルハ下都賀郡赤麻沼附近及毎年水害ヲ蒙ル渡良瀬川沿岸ノ各町村ニシテ此等ノ地方ハ土地濕潤且ツ水田多キヲ以テ「マラリア」病原蟲ノ寄生體タル「アノフェレス」蚊ノ發生多キニ由ル

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

發生地各町村ニ就テ其ノ狀況ヲ見ルニ

- 下都賀郡間々田村、部屋村、寒川村、赤麻村、藤岡町、三鴨村、富山村、靜和村、水代村、野木村
- 安蘇郡、植野村、界村

足利郡吾妻村、久野村、富田村

本病ノ發生著明ナルモノニシテ就中野木村、生井村、部屋村、藤岡町、赤麻村ノ如キハ最モ多ク發生シ毎年住民ノ約四分ノ一ハ本病ニ罹ルノ實況ナリ而シテ前記各町村ニ於ケル罹病數ヲ概算スルニ毎年壹萬貳千五百餘名ノ多キニ上ル

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健狀態

前記ノ如ク病竈地ハ池沼多ク土地濕潤ニシテ一般衛生狀態良好ナラス住民ノ多クハ農業ニシテ商業ハ其ノ一部ノミ而シテ本縣ニ於ケル本病ハ凡テ良性ニ屬シ生命上ノ豫後良ニシテ其經過短キハ五日間長キモ二十日前後ニシテ治癒スト雖トモ再三罹病スルモノ多シ

本病カ住民ノ保健上ニ及ホス影響ハ極メテ少ク出生死亡等ニ於テハ別表第一號表ノ如クニシテ大正五、六、七年ノ三ケ年間ニ於ケル平均數ト縣下全部ニ於ケル平均數トヲ比較スルニ左ノ如シ

出生	有病地	四二・〇九	縣全部	四一・五九	(人口千ニ付)
死産	同	八・三三	同	一一・二〇	(生産百ニ付)
死亡	同	二四・五五	同	二一・四〇	(人口百ニ付)

即チ出生ニ於テ〇・五〇多ク死産ニ於テ三・八六少ク概シテ良好ノ成績ヲ認ム然ルニ死亡ニ於テ三・一五多キカ如キモ之レ大正七年度ニ於テ流行性感胃ノ結果ニシテ大正五、六ノ二年間ノ比較ニ於テ

大差ナシ以上ノ成績ニヨルモ本病ト其ノ住民ノ保健トニハ關係少キモノト認ム

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較

別表第二號表ノ如シ而シテ本縣下ニ於ケル三年間ノ全平均數ハ三一・八ニシテ有病地ノ平均數ハ三三・三ナリ故ニ成績良好ナルカ如ク本病ノ影響ヲ受クルコトナシト認メラル

五、「マラリア」ノ豫防撲滅ニ對スル施設

本病ニ對シ豫防施設シタルコトナシ霞下都賀郡藤岡町ニ於テ二三有志者ニヨリ南洋蝙蝠飼育及除虫菊ノ栽培等ヲ企圖セラレタルモ未タ實行ニ至ラス元來本縣ニ於ケル本病ハ生命ニ危險ナク極メテ良性ノ疾患ニシテ殊ニ古來ヨリ存在シ住民ハ之レニ馴レ意ニ介スルモノ殆ント少シト雖モ別表各町村ニ於テ本病ニ侵サルル者萬餘ニ上リ其ノ經過日數ヲ平均一人五日トセハ實ニ六萬貳千五百日(約百七十年)ヲ算シ生産上ニ及ホス影響渺カラズ茲ニ於テカ本病ノ豫防ハ極メテ喫緊ニ屬スレトモ未タ具體的成案ナシ

六、「マラリア」豫防撲滅事業等ニ要スル經費關係

本病豫防撲滅事業ニ要セル費用ナシ

七、將來ノ計畫

本病ノ發生ハ「アノフェールス」蚊ニ由ルヲ以テ其ノ發生ヲ防止スルハ本病豫防ノ第一ナリト信ス之
レカ爲メニハ

- 一、渡良瀬川及巴波川ノ治水策トシテ利根川ノ大々的浚渫
 - 二、赤麻沼及其ノ他ノ池沼ノ埋立
 - 三、耕地整理ヲ爲シ水田ヲ乾田トスルコト
 - 四、各戸ニ於テ附近ニ水溜等ヲ作ラサルコトニ注意スルコト
 - 五、溝渠汚水溜等ニ蚊族ノ發生時期ニ於テ石油劑ヲ撒布シ之ヲ防止スルコト
 - 六、流行期ニハ「キニーネ」ノ内服
- ヲ斷行スレハ殆ント其跡ヲ斷ツヘキモ一、二、三項ノ如キ例ト後來其ノ生産ヲ以テ償ヒ得ルト雖トモ兎ニ角經費等ノ關係上一朝一夕ニ之ヲ行フ能ハサルモ四、五、六項ノ如キハ極メテ些々タル費用ヲ以テ意外ノ効果ヲ收メ得ルコト、信スルヲ以テ之カ實施ニ就キ目下計畫中

(第一號表)

名村町	年 別	人 口	出 生 數	千 分 比 例	死 亡 數	千 分 比 例	死 産 數	生 産 二 對 ス ル 百 分 比 例
村田々岡	大正五年	五、五一九	二三四	四二・三四	一四六	二六・四五	一三	五・五六
	同 六年	五、六九四	二七八	四八・八二	一一九	二〇・八九	一八	六・四七
	同 七年	五、八七四	二二四	三六・四二	一三〇	二二・一三	一八	八・四一

村 野 木	大正五年	同 六年	同 七年	平 均	村 生 井	大正五年	同 六年	同 七年	平 均	村 寒 川	大正五年	同 六年	同 七年	平 均	村 部 屋	大正五年	同 六年	同 七年	平 均	村 赤 麻	大正五年	同 六年	同 七年	平 均
八、七三〇	八、七〇四	八、六五九	八、六九七	五、六九五	四、〇七九	四、二二九	四、三二八	四、二二二	四、〇七九	二、八一四	二、八六五	二、八九五	二、八五八	二、八五八	五、四四八	五、四九八	五、六五八	五、五三四	三、九六九	四、〇五九	四、一八	四、〇四八	四、〇四八	
三三八	三九二	三九二	三六四	二四二	一九九	二二九	一五三	一九三	一九九	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	二二一	二二八	二二二	二二〇	一五〇	一八三	一七六	一六九	一六九	
四一・〇〇	三九・〇六	四五・〇九	四一・八五	四二・四九	四八・七八	五二・九六	三五・三五	四五・八二	四一・〇〇	四七・九七	四三・九七	三九・〇三	四三・三八	四〇・五六	四一・四七	三二・三四	三三・三四	三三・三四	三七・九七	四五・〇八	四二・七三	三九・二七	三九・二七	
二二一	一三九	二二三	一九一	一三三	七四	七二	九二	七九	二二一	七二	五四	八三	六九	二二七	一一八	一一八	一一一	一一一	九四	八三	一三二	一〇三	一〇三	
二四・一六	一五・九六	二五・七五	二二・九六	三二・一七	一八・一四	一七・〇二	二二・二五	一八・七〇	二四・一六	二五・二三	一八・八四	二八・六七	二四・一四	二二・三二	二一・四六	二六・一五	二二・一一	二二・一一	二三・六八	二〇・四四	三二・〇五	二五・四四	二五・四四	
三六	三〇	二六	三〇	一六	一四	一一	一一	一一	三六	八	一二	八	九	二五	二五	一八	二二	二二	一六	一一	二二	一六	一六	
一〇・〇五	八・七五	六・九〇	八・二四	六・六二	七・〇三	四・八〇	八・五〇	六・二二	一〇・〇五	五・九三	九・五二	七・〇八	七・二六	一一・三一	一〇・九六	八・四五	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・六六	六・五六	一二・五〇	九・四七	九・四七	

村田富	村野久	村妻香	村界	村野植
平 同 大正 均 七 五 年 年 年	平 同 同 大正 均 七 六 五 年 年 年 年	平 同 同 大正 均 七 六 五 年 年 年 年	平 同 同 大正 均 七 六 五 年 年 年 年	平 同 同 大正 均 七 六 五 年 年 年 年
四、九四六 四、九五二 四、七八五 四、八九四	三、五六四 三、五四七 三、五八五 三、五六五	二、九四七 三、〇七五 三、一五五 三、〇五九	三、九六二 四、〇五六 四、一三三 四、〇四三	八、一二二 八、五九四 八、八六五 八、五二七
二〇六 二四〇 一八三 一九九	一四四 一六〇 一四三 一四九	一三一 一九〇 一八四 一六八	一三六 一六九 一六五 一五六	三四九 三六〇 三六一 三五六
四一・六四 四二・四〇 二八・二四 四〇・六七	四〇・四〇 四五・一〇 三九・八八 四一・七九	四四・四五 六一・七八 五八・三二 五四・九一	三四・三二 四一・六六 四〇・一一 三八・五八	四二・九六 四一・八四 四〇・七二 四一・七四
一三七 一〇〇 一一四 一一七	一一二 一〇四 一一六 一一四	七五 八九 一〇九 九一	九〇 八九 九三 九〇	二二七 一七四 一九四 一九五
二七・六九 二一・二三 二二・八二 二二・九〇	三四・二三 二九・三二 三二・三五 三一・九七	二五・四四 二八・九四 三四・九五 二九・七四	二二・七一 二二・九四 二二・六一 二二・二六	二六・七一 二〇・二四 二二・八八 二二・八六
一八 二二 一一 一七	一〇 一九 一六 一一	一一 一五 一一 一二	一一 一二 一一 一二	二五 二四 二四 二五
八・七四 一〇・四七 六・〇一 八・五四	六・九五 一・八七 四・二〇 七・三八	九・一六 七・八九 五・九八 七・一四	九・五六 七・一〇 七・八八 七・七〇	一一・一七 六・六七 三・六〇 七・〇二

村和静	村山富	村代水	村嶋三	町岡藤
平 同 大正 均 七 五 年 年 年	平 同 同 大正 均 七 六 五 年 年 年 年	平 同 同 大正 均 七 六 五 年 年 年 年	平 同 同 大正 均 七 六 五 年 年 年 年	平 同 同 大正 均 七 六 五 年 年 年 年
三、五五三 三、五五一 三、五四二 三、五五二	五、二〇〇 五、〇四一 五、二七五 五、二八六	四、七三三 四、八八二 四、七九一 四、五二六	四、六九五 四、八五二 四、七八三 四、四五二	四、二四四 四、二九五 四、二四八 四、一八九
一五六 一三九 一七〇 一九九	一八八 一八一 一九〇 一九四	二〇〇 一九六 二一七 一八八	二〇七 二二〇 二〇六 一九五	一七三 一七一 一六〇 一九〇
四三・九〇 三九・一四 三九・九四 四三・九〇	三六・一五 三五・九〇 三六・〇一 三六・七〇	四二・二五 四〇・一四 四五・二九 四一・五三	四四・〇八 四一・二二 四三・〇六 四三・八一	四〇・七六 三九・八一 三七・六六 四五・三五
九六 一〇一 八八 九九	一一六 一三四 一〇七 一〇九	一一七 一三六 一一〇 一〇五	一五六 一八九 一四〇 一四〇	一一一 一一三 一一〇 一一〇
二六・一七 二八・四四 二二・七八 二二・九〇	二二・三〇 二六・五八 二〇・二八 二七・七六	二四・七二 二八・六七 二二・九五 二二・一九	三三・二二 三八・九五 二九・二七 三一・四五	二六・一五 三六・三〇 二五・八九 二六・二五
一八 二六 一四 一六	一一 一四 一五 九	二二 一九 二二 二二	一五 一四 一三 一九	二四 二二 二四 二七
一一・五三 一八・七〇 八・二四 一〇・〇六	六・三八 七・七三 七・九〇 四・六四	一〇・五〇 九・七〇 一〇・五九 一一・一七	七・二五 六・三六 六・三一 九・七四	一三・八七 一二・八六 一五・〇〇 一四・二一

(第二號表)

「マラリア」病竈地ニ於ケル三ヶ年間徴兵合格率

町村名	大正五年	大正六年	大正七年	平均
間々田村	四六・〇〇	五〇・〇〇	四七・〇〇	四七・六六
野木村	五四・九〇	五六・九七	五五・三五	五五・七四
生井村	三九・五八	四〇・〇〇	三〇・〇〇	三六・五二
寒川村	一三・七九	二五・八〇	三一・五七	二三・七二
部屋村	三七・二〇	三二・七八	二八・一二	三二・七〇
赤麻村	三一・二五	二二・五二	三〇・五五	二八・四四
藤岡町	一三・一五	一三・八八	二一・七三	一六・二五
三鴨村	一七・三九	一五・〇〇	二二・六三	一八・六七
水代村	二五・〇〇	一七・〇九	二五・〇〇	二二・三六
富山村	三〇・〇〇	三二・六五	三五・五五	三二・七三
靜代村	三七・五〇	三六・〇〇	三六・五八	三六・六九
植野村	三〇・九八	三七・三三	二二・八九	三〇・四〇
界和村	四二・三〇	四〇・五一	四〇・〇〇	四〇・九三
吾妻村	二七・五八	二七・九〇	三三・三三	二九・六〇
久野村	三七・五〇	二〇・〇〇	一六・六六	二四・七二
富田村	五五・一〇	五八・一三	六一・四二	五八・二一
平均	三三・七〇	三二・九七	三三・七〇	三三・四五

(一四) 奈良縣

本病ニ關シテハ目下詳細ナル調査ナキモ大正八年度ニ於テ保健衛生調査ノ際之レカ調査ノ計畫中ナリ

(一五) 三重縣

一、「マラリア」ノ蔓延狀態

本縣ニ於ケル「マラリア」ノ蔓延狀態ヲ確カメント欲シ大正七年中蚊ノ種類調査ト相俟テ蚊族ノ比較的
 的多ク發生スル地方ニ於ケル疾患者ヲ開業醫ニ就テ調査スルト共ニ一面藥種商、賣藥小賣營業者ニ
 就キ素人療法ニ用ユル同病ニ對スル藥品及賣藥ノ販賣高等ヲ調査セシニ左表第一號乃至第三號ニ示
 スカ如キ結果ヲ得タリ尙各郡市醫師會ヲシテ縣下全般ノ蔓延狀態ヲ調査セシメタルニ左表第四號ニ
 示スカ如ク本病ハ縣下一二郡ヲ除クノ外殆ント全帶ニ亘リテ蔓延シツ、アリ就中桑名郡ノ如キハ何
 レノ方面ヨリ觀察スルモ病竈地ト見做スヘク其ノ他ノ地方ニ於テハ其ノ蔓延僅微ナルモノ、如シ

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

左表第一號乃至第三號ノ如シ

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健狀態

病竈地ト見做スヘキ桑名郡ハ愛知縣ニ隣接シテ縣ノ最北端ニ位シ東ハ伊勢灣ニ臨ミ郡ノ東北部ヲ木曾、揖斐ノ二大河貫流シ郡ノ大半ハ此ノ二大河沿岸ニ位シ地勢概ネ平坦河川、池沼、水田等多ク土地低ク濕潤ニシテ排水ニ不便ナルヲ以テ常ニ惡水ノ停滯夥シ而シテ住民ノ保健狀態ニ就テハ從來他郡市ニ比シ明治四十年以來十ケ年間ノ死亡率第十二位ニアリ其ノ他一般の衛生上ノ調査ニ依レハ著シキ差異ヲ認ムヘキモノナキモ未タ微細ナル研究調査ヲ爲サ、ルヲ以テ具體的説明ヲ爲シ得サルヲ遺憾トス

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較

左表第五號ノ如シ

五、「マラリア」ノ豫防撲滅ニ對スル施設

明治四十年以來市町村衛生組合ヲ督勵シ毎年蚊ノ發生期ニ於テ時々市町村内下水溝、汚水、瀦溜場所其他蚊ノ發生スヘキ場所ニ對シ團體又ハ個人ヲシテ石油撒布ヲ行ナハシメ蚊ノ撲滅ヲ圖リ以テ其ノ

六、「マラリア」豫防撲滅事業ニ要スル經費關係

「マラリア」媒介ヲ防クニ努メ又一面一般衛生ト蚊族撲滅ヲ兼テ財力ノ許ス限リ下水道ノ改修ヲ獎勵シ大正三年以來宇治山田市、松阪、鳥羽、龜山、神戸各町ハ既ニ工事完成好果ヲ收メツ、アリ

前項ノ外未タ本事業ニ着手セサルヲ以テ經費トシテハ單ニ前項記載石油及人夫料ニシテ其ノ支出ハ市町村又ハ大字區費若クハ衛生組合ノ負擔ニシテ下水道改修費ハ市町村費ニヨルモノハ傳染病豫防費ヲ以テ補助シ其ノ他ニアリテハ各大字ノ負擔トセリ

七、將來ノ計畫

從來施行シツ、アル方法ヲ續行セシムルト共ニ一面上下水道ノ改良ヲ圖リ或ハ衛生組合其ノ他自治團體ノ活動ヲ促シ又臺灣「メタカ」ノ繁殖ヲ圖ルヘク計畫中ナリ

(第一號表)

蚊ノ種類研究成績表

町村別	検査總數	アノフェーレンス		クレーンクツス		ステゴミイア		其他	
		検査數	%	検査數	%	検査數	%	検査數	%
桑名町	八六九	一五七	一八・〇六	六八五	七八・八三	二七	三・一一		

(第二號表)

合 計	神 社 町	宇 治 山 田 市	二 見 町	島 羽 町	上 野 町	四 日 市	津 市	富 洲 原 村	富 田 村	長 島 村	調 査 期 間	
											自 十 五 月 一 日 至 十 一 月 三 十 一 日	自 十 一 月 一 日 至 十 五 月 三 十 一 日
五、一六一	五八	四三六	一五二	二五四	七二九	六一七	七五五	八八五	二三七	一六九	蚊ノ害ニ因ル疾病	計
四七四	二	三八	一一	一〇	三三	三七	一五一	一三	一一	二二	流行性胃	計
九・一八	三・四五	八・七二	七・二四	三・九三	四・三九	五・九九	二〇・〇〇	一・四七	〇・四二	一三・〇二	感	計
三、九八五	五四	二六五	一一〇	九〇	六八四	三七九	五六七	七九一	二二七	一三三	感	計
七、七二一	九三・一〇	六〇・七八	七二・三七	三五・四三	九三・八三	六一・四三	七五・一〇	八九・三八	九五・七八	七八・七〇	感	計
六九七	二	一三三	三一	一五四	一三	二〇〇	三三	八一	九	一四	感	計
一三・五一	三・四五	三〇・五〇	二〇・三九	六〇・六三	一・七八	三二・四二	四・三七	九・一五	三・八〇	八・二九	感	計
五							一四				感	計
〇・一〇							〇・五三				感	計

醫療人員數調查表

(第二號表)

同 長 島 村	桑 名 郡 桑 名 町	調 査 期 間	蚊ノ害ニ因ル疾病		感		計
			間歇熱	フイラ	流行性	其他感冒	
一八五	三五六	自 十 五 月 一 日 至 十 一 月 三 十 一 日	一	一	一五六	八〇四	二、八四四
一五	五三	自 十 一 月 一 日 至 十 五 月 三 十 一 日	一	一	四三三	一〇五二	四二四

(第二號表)

合 計	阿 山 郡 上 野 町	津 市	四 日 市	宇 治 山 田 市	調 査 期 間		計
					自 十 五 月 一 日 至 十 一 月 三 十 一 日	自 十 一 月 一 日 至 十 五 月 三 十 一 日	
六二五	一	四	一	一	一	一	一、〇六一、一四〇
七四	一	一	一	一	一	一	三、五六〇、二八五

藥品賣上金高調査表

(第二號表)

同 長 島 村	桑 名 郡 桑 名 町	調 査 期 間	感 胃 藥	計
三六、五〇〇	四九九、一四五	自 十 五 月 一 日 至 十 一 月 三 十 一 日	一〇六一、一四〇	一、五六〇、二八五
一	一	自 十 一 月 一 日 至 十 五 月 三 十 一 日	三五、五〇〇	七、一〇〇〇

郡市別	患者數	死者數
阿山郡上野町	五五六、〇五〇	一、一九九、一四〇
津市	六一、六五〇	二四八、一四〇
四日市	六七八、六四〇	一、八三四、八七〇
宇治山田市	二八〇、四七〇	一、五六五、九六〇
合計	二、〇四〇、四五五	五、九四四、七五〇

(第四號表)

大正七年中醫療ヲ受ケタル「マラリア」患者及死亡者表

郡市別	患者數	死者數
桑名郡	七三四	二四
三良郡	三一	一六
鈴鹿郡	三五	一三
安濃郡	五三	七
河津郡	二	五
志摩郡	三	七
合計	一、〇六一	一六

郡市別	患者數	死者數
南牟婁市	三	一
津日市	二	一
合計	一、〇六一	一六

(第五號表)

大正七年壯丁體格検査成績表 (百分比)

郡名	年次	検査人員				
		甲種	乙種	丙種	丁種	戊種
桑名郡	七六	四五四	三四・八〇	二〇・四八	二・六四	二・二二
志摩郡	七六	六三二	三七・三四	二五・三二	五・二二	・六三
河藝郡	七六	五五二	三六・六〇	一一・八六	四・七一	・一八
多氣郡	七六	五六一	二八・一五	一八・三六	四・二八	・三五
名賀郡	七六	六三四	三八・一七	二二・八二	四・一〇	・三二
多氣郡	七六	七〇〇	二九・〇〇	二二・八六	五・五七	・八六
安濃郡	七六	四六七	三八・一一	二二・三四	四・四九	・二八
津市	七六	四六〇	三九・三三	一八・二六	四・一三	・八七
合計	七六	四六〇	三九・三三	一八・二六	四・一三	・八七

備考 郡市名ノ上〇印ハ「マラリア」病發地其他ハ同無病地下認ムヘキモノヲ示ス

(一六) 愛知縣

一、「マラリア」ノ蔓延状態

本縣ハ従前到ル所本病ノ發生ヲ見タリト雖モ名古屋市ノ如キハ下水道布設後自然同病患者ノ減少ヲ來シ又八名郡、寶飯郡内ノ或ル部落ノ如キハ夏期ニ於テ夜業ヲナスカ爲メ村民擧テ附近ノ沼池若クハ溝渠等蚊族發生ノ場所ニ石油ヲ撒布シ専ラ之カ妨止ニ勉メタル結果近來概シテ同患者減少ノ傾向ヲ來セルカ如シ然レトモ海部郡ノ如キハ一般ニ低地ニシテ到ル處雨水、汚水ノ渚溜ヲ來シ所謂惡水路ト稱スルモノ村内各所ニ散在シ且ツ蓮田、沼地、溜池等甚タ多ク又或ル部落ニ於テハ輸出扇子ノ材料タル竹木ヲ浸スヘク毎戸ニ水溜ヲ設ケル結果自然蚊族ノ發生ヲ促シ今ニ尙ホ「マラリア」患者多數ニ上リ本縣下ノ病竈地トモ稱スヘキ狀況ニアリ

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

本縣ニ於テハ從來「マラリア」ニ關スル詳細ナル調査ヲナシタルモノナカリシカ縣内發生ノ「マラリア」ハ多クハ隔日性間歇熱(三日性間歇熱)ニシテ毎日性間歇熱ハ少シ所謂惡性「マラリア」ナルモノナク從テ同病ノ爲メ死ノ轉歸ヲ取リタル者ナキヲ以テ一般縣民ハ本病ニ對シ何等意ニ介スルモノナ

キ狀況ニアリ

大正七年中ニ於ケル縣下「マラリア」患者數及人口トノ比例左ノ如シ

大正七年中ニ於ケル「マラリア」患者表

郡市別	「マラリア」患者數	現在人口	人口百人ニ付罹病數
名古屋市	七二	四一九、七四九	〇・〇一七
岡崎市	一一	三八、八〇三	〇・〇三〇
愛知郡	五三四	一七二、一七九	〇・三一一
春日井郡	一四二	一〇八、八三三	〇・一三〇
西春日井郡	六七七	七六、四九〇	〇・八八五
丹波郡	四二	九五、二七〇	〇・〇四五
栗原郡	二一〇	三四、七八五	〇・六〇〇
中島郡	二七九	一三二、〇二一	〇・二一〇
海部郡	二、三五二	一二六、二八四	一・八六〇
知多郡	九四八	一八一、五四〇	〇・五二〇
碧野郡	一一三	一四六、九七六	〇・〇七〇
幡豆郡	四〇七	九一、一九〇	〇・四四〇
額田郡	一〇六	五三、二九三	〇・〇二〇
加茂郡	一〇	五二、〇一六	〇・〇二〇
西加茂郡	三	三三、九〇六	〇・〇一〇

北設樂郡	一	三四、四一〇	〇・〇〇三
南設樂郡	二	三四、七三四	〇・〇〇六
寶飯郡	三	九二、六三六	〇・〇二〇
八名郡	三	三五、五八七	〇・〇一〇

備考 死亡者ナシ

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健狀態

本縣ニ於ケル「マラリア」病竈地トモ見做スヘキハ海部郡ニシテ本郡ハ平原地ニシテ一般ニ低ク所謂惡水路運池、沼地、溜池等到ル處ニ散在シ蚊族ノ發生夥シク郡民ハ殆ント習慣性トナリ蚊襲ヲ意ニ介セサル結果之レカ防止ノ策ヲ講セス自然ノ發生ニ放任シ從テ「マラリア」患者ハ年中絶ユルコトナク同郡佐織村ノ如キハ昨年一月中既ニ十一名ノ患者ヲ出セルノ狀況ニアリ然レトモ住民ノ保健狀態ハ何等著シキ異狀ヲ認メス之レ即チ本郡ノ住民ハ「マラリア」病ナルモノヲ一般ニ熟知シ同病ニ感染スルヤ直ニ藥舖ニ就キ「キニーネ」ヲ服用シテ治療ヲ促スノ結果ナランカ

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較

本縣ニ於テハ絶對ニ「マラリア」無病地ナルモノナシト雖モ北設樂、八名、兩郡ハ殆ント無病地ト稱スヘキ狀態ニアルヲ以テ左ニ表示セルカ如ク徵兵合格率ヲ比較スルニ何等著シキ關係ヲ發見セス

徵兵合格率比較表

郡名	人口百ニ付患者數	大正七年ニ於ケル徵兵甲種合格率
海部郡	一・八六〇	三四・〇
北設樂郡	〇・〇〇三	四四・八
八名郡	〇・〇一〇	三一・八

五、「マラリア」ノ豫防撲滅ニ對スル施設

何等施設サレタルモノナシ唯個人トシテ豫防的ニ「キニーネ」少量ヲ内服スルモノアルニ過キス

六、「マラリア」豫防撲滅事業等ニ要セル經費關係

本縣ニ於テハ本項ニ關スル經費ナシ

七、將來ノ計畫

目下考究中

(一七) 静岡岡縣

一、「マラリア」ノ蔓延状態

本縣下ニ於ケル本病ノ蔓延ハ主トシテ西遠地方ニ限局シ其ノ他ニ於テ稀ニ一兩名ノ散發又ハ外來者ノ罹患歸郷スル等ニ依ルモノアルノミナリ之ヲ郡別トシ大體ヲ示セハ左ノ如シ

賀茂郡 從來發生ナシ

田方郡 同前

駿東郡 同前(長泉村某製紙工場ニテ外來者大正六年一)

富士郡 明治三十九年六月頃柚野村ニ二名アリ其後絶無

庵原郡 蒲原町ニ於テ他地方ヨリ來ル者毎年二三名罹患者アルノミ

安倍郡 從來發生ナシ

静岡市 臺灣歸來者等稀ニ再發的病患者アルモ蔓延流行等ノ事實ヲ認メス

志太郡 藤枝町附近町村一二名宛毎年發生スルノミナルカ獨リ大津村(人口七一五人)ハ毎年三月ヨリ八月頃迄ニ

榛原郡 大正六年夏季相良町二名同年同季川崎町一名ノ罹患者ヲ認メ得タルノミ又下川根村五和村等ニ毎年一

小笠原郡 兩名發生スル外金谷町ニ四五名發生スルモ多ク他府縣ヨリ歸來者ナリ

横須賀町(人口三、九〇〇餘)毎年七月、八月頃人口ノ約三割方罹患シ西大淵ハ約六割方罹患シ大淵村ハ

二、三割乃至五割前後罹患シ笠原村約三割、河城村二、三十名大坂村ハ數名其他ノ町村ハ甚シカラズ

周智郡	磐田郡	濱名郡	濱松市	引佐郡
-----	-----	-----	-----	-----

森町山梨町ニ兩三名久努西村二十名前後毎年發生ス
本郡ハ最も蔓延流行シ特ニ太平洋沿岸地方ニ甚シク毎年六月ヨリ九月迄ノ間ニ幸浦村外十一ヶ村現住人口合計三萬二千六百九十八人ニ對シ大正七年中患者二千五百五十三人ヲ數ヘ得タリ
濱名湖畔村柳村ニ明治三十六年頃二百五十餘人發生其後中絶シタリシカ三、四年前ヨリ毎年數人ノ罹患者ヲ見ル又同新居町ニ十數年前流行ノ狀ヲ呈セシモ今ハ毎年十數名ノ發生アルノミ新所村ニ一兩名ノ患者發生ヲ見ル
 毎年夏季ニ數名ノ患者ヲ見ルモ流行ヲ呈セス
 從來共本病ノ發生ヲ見ス

要之静岡縣下「マラリア」ノ蔓延状態ハ西遠地方就中磐田郡及小笠原郡ノ海岸ニテ兩郡ノ境界地方タル横須賀町笠原村、大淵村、幸浦村、東淺羽村、西淺羽村及以上各村隣接十數ヶ村ハ本縣下ニ於ケル本病ノ蔓延流行ノ病竈地ニシテ多キハ住民ノ五割前後罹患スル如キモノアリ其ノ他ノ郡市ニ於テハ濱名郡濱名湖沿岸ノ一、二ヶ町村ニ往時相當流行セシモ現在ハ發生少ナク磐田郡山間地方一、二ヶ村周智郡、榛原郡、志太郡ノ一、二ヶ町村ニ多キハ十數名少キハ一兩名ノ患者發生ヲ見ルノミナリ

(別圖參照)

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

特種調査シタルコトナキモ大正六年八月磐田郡方面豫防施設實行ノ準備トシテ横須賀町方面ヨリ多數蚊ヲ捕集セシメ「アノフェレス」數ノ數率ヲ數ヘ平均三十%内外存スルヲ認メタリ

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健状態

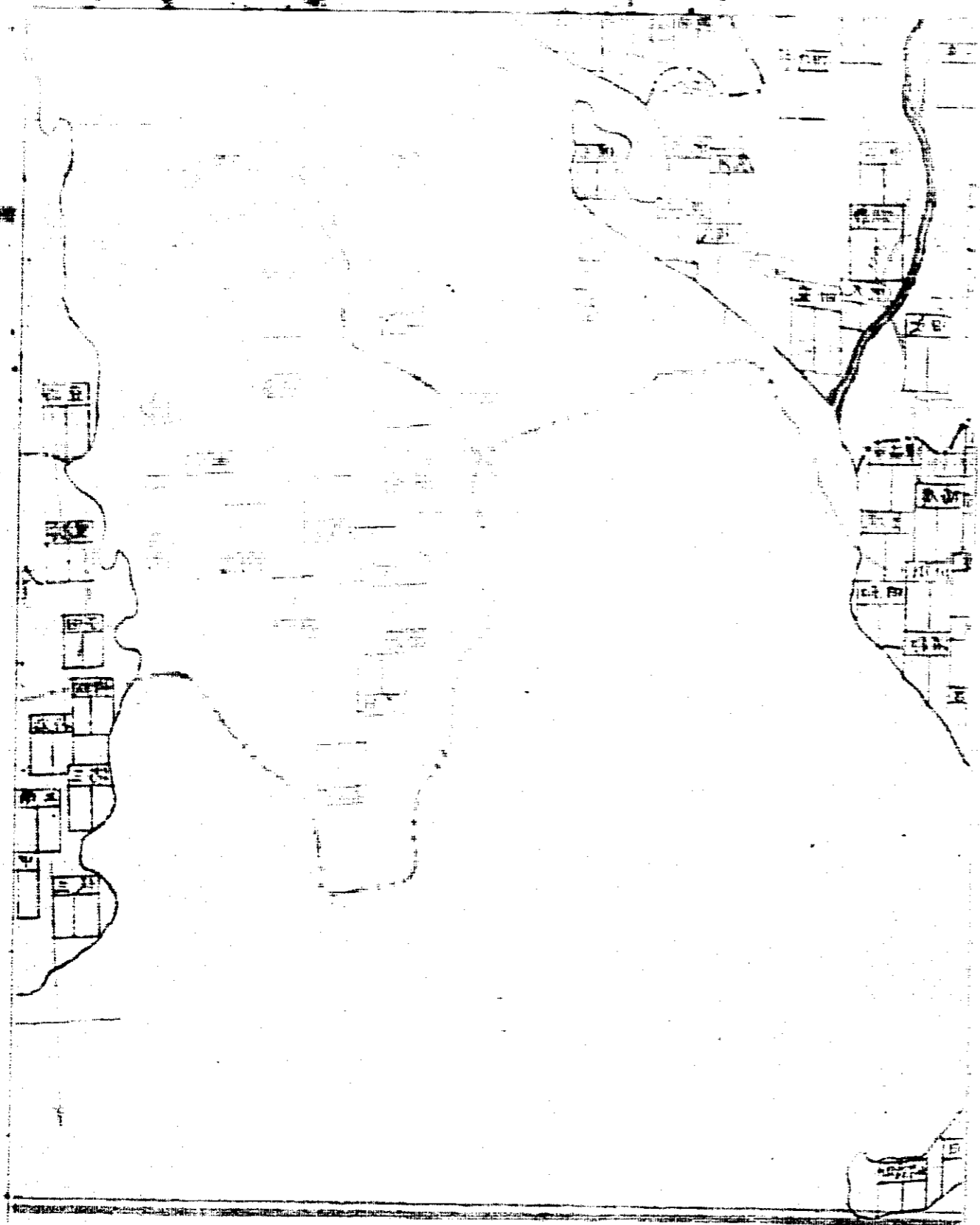
本縣下ニ於ケル代表的「マラリア」病竈地ハ前述ノ如ク小笠郡横須賀町、大淵村、笠原村及磐田郡幸浦村外六ヶ村ト見做シ之カ保健状態ニシテ調査シ得タルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

病竈地方生産人口對千分率

町 村 名	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
小笠郡横須賀町	三九・〇	三九・〇	三六・〇	三〇・〇	三三・〇	
同 大淵村	三二・〇	四四・〇	三七・〇	三三・〇	四五・〇	
同 笠原村	四六・〇	三六・〇	四〇・〇	四四・〇	三四・〇	
磐田郡幸浦村		三八・三	三六・一	三六・一	四〇・〇	三一・〇
同 東淺羽村		三四・三	二九・〇	二五・四	四六・〇	三四・八
同 上淺羽村		二五・三	三三・六	三四・五	四六・〇	三六・〇
同 西淺羽村		四〇・七	四三・七	三六・〇	四〇・二	三九・三
同 南御厨村		三八・二	三七・二	四〇・〇	四一・〇	四二・一
同 豊濱村		三〇・七	三二・四	三二・九	三八・七	三八・一
同 福島村		三七・〇	三三・〇	三四・〇	三七・〇	三一・〇

備考

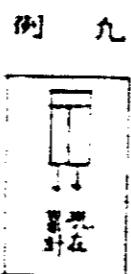
小笠郡ニ屬スル横須賀町、大淵村、笠原村ノ分ハ千分率ヲ四捨五入シ來リ且ツ磐田郡各村トハ年度モ異ナレト大體察知スヘキニ依リ再照覆ノ手數ヲ除キ其儘表出シタリ



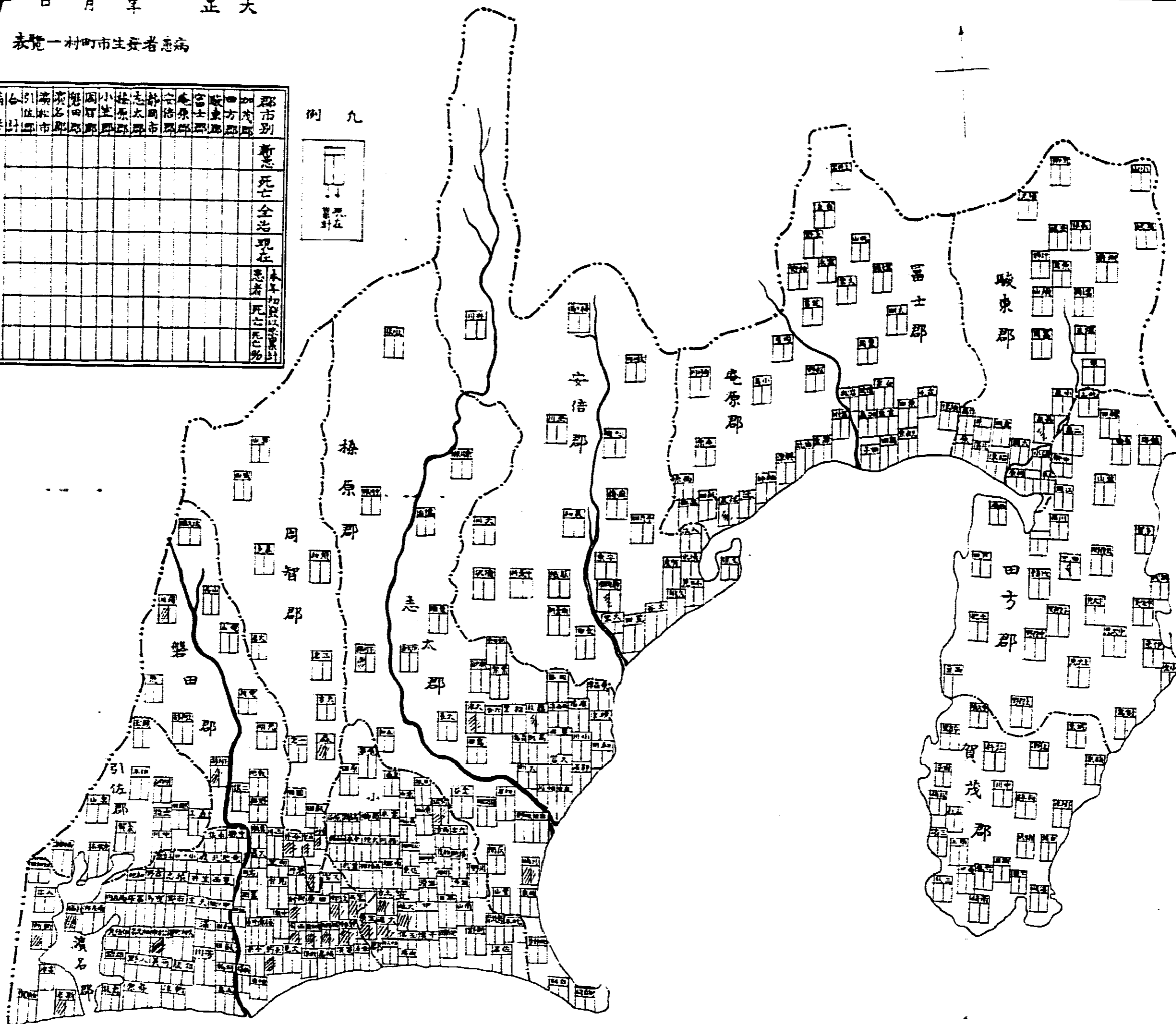
日 月 年 正 大

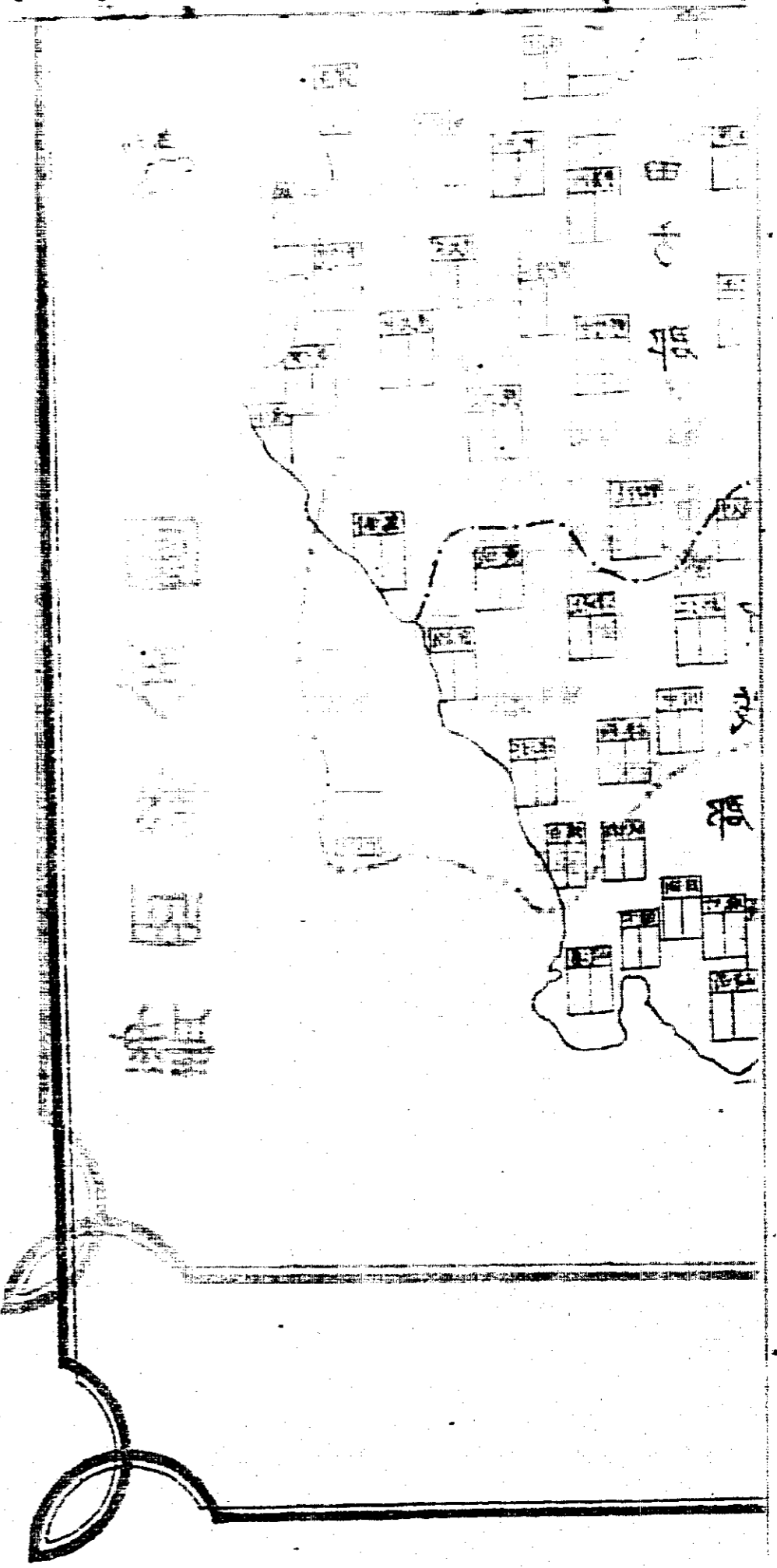
表覽一村町市生受者患病

郡市別	總患死亡全治現在	本年加算以添重者
加茂郡		
四方郡		
駿東郡		
富士郡		
安原郡		
志太郡		
榛原郡		
周智郡		
磐田郡		
引佐郡		
濱名郡		
島田郡		
川上郡		
高田郡		



靜岡縣全圖





小笠郡病竈地方比較死亡人口對千分率

(比較ノ便宜上管テ調査シタル死亡表ニ據リ各町村ノ内「マラリア」病毒濃厚ナルモノヨリ順チ追フテ記載シ終ニ同郡内無病町村ノ平均ト比較シタリ)

町村名	明治四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	五ヶ年平均
横須賀町	一七・五	二四・二	一八・八	二〇・二	二四・四	二一・〇
大淵村	一七・〇	一七・〇	一七・六	一九・七	一七・五	一七・八
笠原村	一八・二	二一・九	一七・七	二四・六	二一・七	二〇・九
大坂村	二〇・五	二二・二	一七・五	一四・八	二二・一	二〇・三
土方村	二三・八	二三・二	二一・六	二四・八	一六・三	二一・九
以上有病地平均	一九・五	二三・一	一九・六	二一・六	二二・一	二一・四
掛川町外三ヶ 町村無病地平均	二一・〇	二〇・一	一九・五	二一・八	二二・九	二一・一

磐田郡病竈地方比較死亡人口對千分率 (小笠原郡ニ同シ)

町村名	明治四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	五ヶ年平均
幸浦村	二二・五	一七・三	二三・二	一九・二	二一・九	二〇・八
西渡羽村	一七・二	一七・八	一八・二	一九・七	七・九	一六・一

郡	明治四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	五ヶ年平均
南御厨村	一六・八	二〇・六	二〇・六	一八・九	一八・三	一九・一
東渡羽村	二一・六	一八・二	一九・〇	二〇・〇	二〇・〇	一九・八
上渡羽村	二〇・五	一八・一	三〇・〇	二〇・七	二四・七	二二・九
福島村	一四・一	一五・八	二五・八	二二・二	二〇・六	一九・八
豊濱村	二〇・一	一一・九	一六・五	一八・三	一三・二	一六・一
御厨村	一三・七	一六・四	一六・八	二六・一	一五・六	一七・七
西貝村	二一・九	一八・三	二二・四	二七・一	二五・八	二二・四
長野村	二一・四	一七・二	二二・八	二二・七	二〇・六	二一・二
今井村	一七・二	一七・七	二九・〇	一七・二	二〇・五	二〇・〇
笠西村	一七・九	一六・三	一九・七	二〇・一	一九・三	一八・八
以上有病地平均	一七・四	一七・一	一七・八	二〇・九	一九・六	一九・二
久努村外三十ヶ 町村無病地平均	一九・八	一九・八	二二・三	二二・四	二〇・九	二〇・八

郡市別病竈地方並隣接郡死亡率平均調

郡別	明治四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	五ヶ年平均
病竈地方小笠郡	二〇・七	二二・二	一九・五	二二・七	二一・九	二一・〇
同接非病竈地方	一九・二	一九・二	二一・七	二二・三	二〇・六	二〇・五
同接非病竈地方	一九・一	一九・四	一九・一	二〇・八	二一・九	二〇・一
同接非病竈地方	二二・一	一九・五	二〇・一	二二・二	二〇・七	二一・〇
同接非病竈地方	一八・七	一八・七	二二・五	一九・八	一九・八	一九・八

以上列記ノ外病竈地方ノ衛生状態ニ就テ略記スレハ前記病竈地方ハ小笠、磐田兩郡ノ太平洋沿岸地方ニ位シ土地概シテ平坦ニシテ一般地水ノ流通良好ナラス一般民ノ健康ノ状態ニ就テ特記スヘキ變調ヲ見ル迄ニ至ラサルモ概シテ「トラホーム」患者率多ク縣ニ於テ特別治療ヲ指示シタル町村モアリ且ツ小笠郡ハ全體ニ於テ地質ノ關係ヨリ適良飲料水ニ乏シキハ特記スヘキ處又十二指腸蟲ノ蔓延モ縣下ニ於テ小笠郡ヲ最トシ周智郡、磐田郡等之ニ次ク有様ナリ結核病死亡者ハ大體ニ於テ必スシモ多カラス法定傳染病ノ發生又多カラス主トシテ赤痢、疫痢等ナルモ全體ニ於ケル人口ニ對シ傳染病死亡率ハ磐田郡ハ全縣下平均ヨリ遙ニ低ク小笠郡亦僅ニ低シ死産ノ多キハ小笠郡、周智郡ヲ最トシ榛原郡、富士郡、磐田郡、賀茂郡ノ順序ニシテ小笠郡ノ多キハ特記スヘキモ本病ト關係アルヤ不明ナリ郡トシテノ生産率ハ小笠郡ハ二市十三郡中ノ第三位磐田郡ハ第八位前後ニアリ

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率比較

町村名	明治四十四年ヨリ大正五年ニ至ル五ヶ年間合格者(甲乙)平均百分率	町村名	明治四十四年ヨリ大正五年ニ至ル五ヶ年間合格者(甲乙)平均百分率
小笠郡各町村	六五・四	大笠原村	七〇・〇
大須賀村	八七・三	大坂村	七四・三

(病毒濃厚ナルモノヨリ順次掲記ス)

土方村	六〇・六	以上有病地平均	六九・三
河城村	七一・八	掛川町外三十八ヶ 町村ノ無病地平均	七二・二

磐田郡各町村徴兵合格率調 (前同断)

町村名	明治四十四年ヨリ大正五年ニ至ル 五ヶ年間合格者(甲乙)平均百分率	町村名	明治四十四年ヨリ大正五年ニ至ル 五ヶ年間合格者(甲乙)平均百分率
幸浦村	七八・九	御厨村	七二・一
西羽村	七二・二	四貝村	六五・五
南御厨村	八一・四	長野村	七九・二
東淺羽村	八三・六	今井村	六六・〇
上淺羽村	七一・四	笠西村	七八・四
福島村	七九・四	以上有病地方平均	七六・三
豊濱村	八二・九	久野村外三十ヶ 町村無病地平均	七二・六

五、「マラリア」豫防撲滅ニ對スル施設

一般衛生展覽講話會又ハ地方改良講演會等ニ於テ蚊ニ關スル病毒傳播關係ヲ説述シ居ル外大正六年八月流行地方ニ於ケル蚊ノ驅除法並ニ之カ町村衛生組合、青年會等ニ於ケル協力施行方法及治療豫防ノ大體ヲ豫防參考記事トシテ添付ノ上訓達ス其他特殊ノ施設ヲ爲サス

六、「マラリア」撲滅事業等ニ要スル經費關係

縣トシテ特ニ計上シタルモノナク町村又ハ衛生組合等ニテ蚊撲滅事業トシテ溝渠石油撒布等ヲ爲スハ普通衛生費ヨリ支出シ居レリ

七、將來ノ計畫

目下定案ナキモ本縣ノ如ク流行地方限局シ居ル場合比較的容易ニ之カ豫防撲滅作業ノ成績ヲ擧ケ得ヘシト認メ機會ヲ以テ流行町村ニ對シ蚊族一齊驅除法並ニ豫防服藥法等ヲ試ムル見込ナリ

八、其ノ他參考トナルヘキ事項

小笠郡及磐田郡ノ前記病竈地方ニ於テハ本病ニ馴レ住民多ク之レヲ輕視シ醫治ヲ乞フモノ寧ロ少ク中ニハ豫防トシテ規那皮ヲ煎シ服用シ又ハ茄子ヲ食スレハ罹病ヲ免カルトノ習俗ノ存スルアリ病竈地方住民ハ右ノ如シト雖モ學校教員警察官吏等ニテ始メテ其ノ地方ニ赴任スルモノハ相當嫌疑シ自ラ合理的豫防法ヲ講スルモノナキニアラス

(一八) 山梨縣

本縣ニ於ケル本病ハ散發性ニ患者ノ發生アリト雖モ極メテ少數ナルモノニシテ蔓延シタルコトナキヲ以テ該當スヘキ事項ナシ

(一九) 滋賀縣

一、「マラリア」ノ蔓延狀態

本縣下ニ於ケル「マラリア」ハ別圖ノ如ク殆ント各町村ニ蔓延セリ殊ニ琵琶湖沿岸ハ其ノ病毒濃厚ニシテ湖岸ヲ遠サカルニ從ヒ漸次稀薄トナル縣内ヲ縱斷セル鐵道東海北陸ノ兩線ハ恰モ病毒濃厚ノ境界線ノ如キ觀アリ

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

明治四十二年ヨリ縣醫師會ニ托シ本病患者ノ治療數ヲ調査セシメタルモ「マラリア」患者ニシテ醫治ヲ受タルモノ極メテ少ク家庭治療ニ依ルモノ多キヲ以テ正確ナル數ヲ知ル能ハス然レトモ其ノ分布ノ狀況ヲ知ルノ資トスルニ足ルヘキモノアリ左表ノ如シ

縣醫師會ノ調査報告セル「マラリア」患者數

郡市別	明治四十三年中	明治四十四年中	郡市別	明治四十三年中	明治四十四年中
大津市	一六七	一六七	愛知郡	四七〇	四〇八
栗原郡	二二三	二七五	犬上郡	三七九	二九八
野洲郡	三四一	一八二	坂田郡	一、五八二	一、六五六
甲賀郡	六五	不詳	東淺井郡	一、〇〇九	一、〇一四
蒲生郡	七三五	九二〇	伊香郡	一、一九六	三三〇
神崎郡	三三四	八五二	高島郡	一、五四六	三三五

大正七年縣下小學校生徒ニ就キ調査シタル本病患者百分比例 (大正七年一月ヨリ八月迄)

郡市別	校數	%	郡市別	校數	%
大津市	五	二・二九	愛知郡	一三	五・五六
栗原郡	一〇	一・八三	犬上郡	一八	一・三四
野洲郡	一一	三・八九	坂田郡	一八	九・二二
甲賀郡	二	七・二〇	東淺井郡	一	七・三〇
蒲生郡	五	〇・二五	伊香郡	一	一一・〇八
神崎郡	二	五・七二	高島郡	一六	一一・四六